

第7回P I 委員会傍聴者アンケート及びインターネット中継結果

1 会議概要

日 時：平成25年1月27日（日）13：00～15：10

場 所：静岡県東部総合庁舎 別棟2階 会議室

出席委員：石田委員長、城山委員、高井委員、寺部委員、松浦委員、目加田委員

傍聴人数：12人（11人提出）

2 アンケート結果

①P I プロジェクトについて

- 全体スケジュールが非常に遅れていて、年度末までにまとめられるのか不安になった。（年度にこだわらなくても良いと思う）
- ステップ2のまとめにきたが、全体のスケジュールが心配である。3月末は不可。早めに県民、市民に進捗を報告すべき。
- 意見集約→目標設定→代替案→推奨案と、各ステップでしっかりチェックしながら進める手法は徐々に成果が出てきていると思う。ただ、すでに事業が進展しており難しさは否定できない。
- このような手法がもっと早くから確立されており、本事業の計画時点から実施できていればよかったと思う。
- 事業者の意見収集にあっては交通関係者としては経営的な見方からの意見になってしまうのでは。市民にとってどうかという意見が大事であると思う。

②P I 委員会について

- これまで開催された車座談議、勉強会、オープンハウスで出された意見集（個別）にかかるP I 委員同士間のより突っ込んだ意見、議論の時間が少ない。
- 当局の説明の時間が多すぎる。（資料は）事前配布されていないのでは。全般的には不満。
- 報告事項が多すぎて質疑応答が主な議論となり、委員の意見交換が十分でなかったように感じた。
- メンバーに結果について意見を聞くが、もっと前に進んだ意見を聞くべき。
- P I 委員の発言は理解できた。県職員のまとめ方や考え方が未だ先を見すえていない感じがした。
- 目的をぼかしている回答（主体）が多い。
- つまらない形式的議論だけして、やった形だけで中身がない。
- 市民の意見が大事なのに、市民に対する配慮がなく、個人では傍聴だけしか出来ない。

③勉強会について

- 委員が指摘したように勉強会の議論の中で出された意見の根拠を深める議論が必要である。ファシリテーターの話合いの進め方の工夫が大事。
- 勉強会の話合いで客観的データが必要になってくる。沼津市の人口の変遷(今後)、沼津市の財政、沼津駅乗降者人数の変遷、交通渋滞の実態(場所・時間・台数等) 商店街の商店数の変遷、中心市街地の人口等が必要。
- 確かに意見の聞きっぱなしだけでなく、その検証・調査を都度行い、フィードバックが必要である。
- まちづくりの意見が中心のため都市計画部の職員だけでなく、県も市の職員も商工振興課の出席をお願いしたい。
- 委員の求める勉強会や市民へのPRの方法を実施して欲しい。
- 公開勉強会だと一般市民の参加や事業への理解度が進むと考える。

④その他

- このままPIを実施していくと、鉄道高架も出来なくなるのではないかと非常に心配している。
- 今まで沼津が発展しないのは一部の少数の人のために何でも反対されてきた結果である。大勢の賛成者のためにある程度のところで強引に進めないと今の社会情勢からして出来なくなってしまう。早く進めてもらいたい。
- 傍聴者が少なく、市民の関心が薄いことを再認識した。
- 委員より沼津が三島や富士に遅れているという意見があったが、多くの沼津市民が持つイメージ。三島は沼津より人口が少ないのに、そう感じるのは新幹線駅のせいだ。富士については企業誘致に対してだ。沼津は良くなるチャンスを反対運動によりつぶされた。高架までつぶされたら今度こそ遅れてしまう。東部の中核になれない。
- 高架の早期着工を望んでいるのは大多数の沼津市民、反対しているのは一部のイデオロギーの人と外から(成田など)の人たちです。
- 知事は有識者会議において事業の妥当性が認められたにもかかわらず、PIの実施により結論を引き延ばしている。
- 沼津市長は再選されたにもかかわらず積極的な発言をしない。
- 2人の首長の無責任さが沼津をダメにしていく根源だと言わざるを得ない。

3 インターネット中継結果

- アクセス台数 パソコン 56 台
- 延べ視聴時間 23.5 時間